

## 絶対信仰(マルコ 15:39-47)

せっかく信者になったのに、世の思想や人の声、また自分の経験などに染まってしまうことがしばしばあります。それはなぜかと言いますと、その人が悪いからというよりは、信じたけれども、まだその信仰が絶対的なものになっていないからです。なので信者の私たちにまず求められることは、自分の信仰が絶対信仰になるところに、神様の第一の願いがあるということ覚えましょう。その絶対信仰の内容はどのようなものなのでしょうか。そして、その絶対信仰から現れる力はどのようなものなのでしょうか。それを今日ともに教えられていきたいと思ひます。

今日の聖書の箇所は、イエス様が息を引き取られたその時に、今まで私たちが聖書を確認してきたところ、まず弟子たちはみな逃げて去って行きました。そのような反応がありました。また、ローマの兵士たちは、イエス様を叩きながら侮辱していたわけです。また、そこを通りかかった群衆は、イエス様の十字架を見て嘲て罵っていたということを私たちは見ていました。そして、それが私たちのレベルから見たときには、ある意味当然なことだったわけです。このような状況の中で、ユダヤ人でもない百人隊長、ローマの兵士が、このような状況の中で十字架でイエス様が息を引き取られる様子を見て、この方こそ神の御子に間違いないと告白しました。それはたぶん小さな声でささやいたことではないと思ひます。聖書に記録されているというのは、こういう状況でもし十字架で死んでしまったイエス様に対して、この人はまさに神の子どもだったというのは非常におかしいことだし、危険なことなのです。それでもユダヤ人ではない異邦人、ローマの人なのに、そのように告白をしていたということを確認することができます。それからヨセフという人が決断して、危険を覚悟の上で、ヘロデ王の方に行つて、げ様の様の死体を引き渡すようお願いしたわけです。それは今の状況から見ると、非常に危険なことなのです。にもかかわらず、神の国を待ち望んでいたと言われているヨセフという人が、イエス様の遺体を引き渡すようお願いをして、ヘロデが本当に死んだのかということを確認した後、引き渡しました。それで掘ってあった新しいお墓の中にイエス様を葬ったわけです。これは誰でもできることではありません。先ほども申し上げましたように、すべての人の反応がイエス様に対して罵るような反応、それが世論であり、社会的な雰囲気なのです。それが当時は正論でした。その中でこのような行動を取ったということは考えさせられるものがあるということです。それからマリヤと言われている何人かの人、特に二人のマリヤという名前を持っている女性が、イエス様が葬られるお墓はどこにあるのかということはずっと見て確認していました。その後、イエス様の遺体に油を塗るといふつもりでそういうことをしていたわけです。普通の一般的な反応から見た時には、考えられない行動です。危険を伴うことなのです。このようにイエス様が十字架で息を引き取られて死なれたとその前でこのような反応を示すということは、一般の常識から見た時には非常に危ないことであり、おかしいことなのです。にもかかわらず、そういうことに構わずこのようにやっていたということ絶対信仰と言ひます。もちろん彼らはイエス様の復活についてはまだ曖昧でよくわかっていません。しかし、今現在のその時刻表の中では、彼らの絶対信仰が垣間見られるような、そういう場面ではあります。この彼らの絶対信仰を確認して、その絶対信仰はどのようなものであり、またどのような力が現れるのかということを確認して行きましよう。

### 1. イエス様へ絶対信仰告白は暗闇を砕く。

まず第一に、イエス様に対して絶対信仰告白をするときに、目に見えない暗闇の力が砕かれていくようになります。私たちは目に見えることばかりにこだわつて、それしかわかっていません。すべての計算も目に見えるものによって左右されることにはなりますが、しかしイエス様に対して何はともあれ、絶対信仰告白をするときに、私たちがダメにしている目に見えない暗闇の力が砕かれるということに心を覚えましよう。

#### 1) この世で何と言おうとも

この世でイエス様のことをいろいろ言っています。この世で何と言おうとも、私たちは「主は、生ける神の御子キリストです」と告白すること、これこそが絶対信仰なのです。世の中では、また学校で勉強している教科書の中には、イエス様が四大聖人の一人として紹介されています。そのように言われようがどうであろうが、私たちはイエスはキリストと告白する、その信仰告白が絶対にならないといけません。なぜでしょう

か。絶対だから。そして、ある人は、イエスはキリスト教という宗教の創始者なんだと紹介する人もいます。そうと言われても、私たちは「主は、生ける神の御子キリストです」と告白します。宗教の指導者ではありません。キリスト教の創始者ではありません。神の御子、万軍の主であり、創造主です。その方が私たちのために悪魔の頭を踏み砕いで勝利なさったキリストなのです。誰が何と言おうが、私たちはイエスはキリストと告白しないとイケません。場合によってはイエスはいかれたものなんだ。異常者なんだと酷評するような、そういうこともあります。にも関わらず、私たちは耳を塞いでイエスはキリストと。そして、精一杯、配慮して言うのが、イエスはイスラエルの救世主なんだということを言っているのです。しかし、そういうお話の前で私たちは、イエスはキリスト、主は、生ける神の御子キリストですという告白から一步も離れてはいけなく、揺れてもイケません。これが絶対信仰なのです。

## 2) 教会が違うことを教えても

残念なのは、教会の中で聖書を教えるところでも間違っして教えているのです。イエス様がまるでバプテスマのヨハネのように社会正義のために生まれてきた偉い英雄のように。あるいはエリヤのように神秘的な力をもって人間の問題を解決するような、そういうマジシャンみたいな感じで紹介する場合もあるし、またエレミヤのように博愛主義を唱えているヒーローのように紹介される場合があります。言葉はそのように言われていなくても、あるいは何かの固い教理を守って教える教師のように教会でも教える場合がありますが、教会でそのように間違っして教えて、それが普通に普及される時代であっても、私たちはその中でマイノリティになって、「イエスはキリスト、主は、生ける神の御子キリストです」とその信仰告白を譲ってはいけません。それが絶対信仰です。

## 3) 自分に何が起きても

それから、もう一つ大切なのは、信者、自分自身に何か起きた時に、イエスはキリストではないのです。またすぐにイエスをエリヤのように、イエスをごりやくのための相手としてころころころころ変わってしまうのですが、自分自身に何が起きても、どんなことがあっても構うことなく、イエスはキリストと告白しなければなりません。私たちの信仰告白はそのような絶対信仰だということを改めて心にしっかり刻み込みましょう。うまくいくときもあります。しかし、うまくいかないでつまづくときもあります。どっちでも私たちは「イエスはキリスト」という告白から離れてはいけません。健康なときも病気を患うときもあります。どっちでもどのような場合でも、私たちはイエスはキリストと告白しなければなりません。裕福になるときもあるし、貧乏な時期もあります。どっちであっても私たちは変わることなく、「イエスはキリスト、主は、生ける神の御子キリストです」と告白します。社会的に成功を収める場合もあります。あるいは、自分の過ちによって失敗するときもあります。それが良いとは言えません。しかし、失敗したときにも過ちを犯したときにも褒められるときにも成功したときにも私たちの告白は変わりません。イエスはキリスト。主は、生ける神の御子キリストです。そのときに暗闇の力が砕かれます。何も問題が起きない平凡な平坦な日々を歩くときもあります。そのときは「イエスはキリスト」ではないのでしょうか。あるいは苦難と試練にあう場合があります。問題がなくても苦難がやって来ても、私たちの信仰告白は同じなのです。変わることはありません。イエスはキリスト。主は、生ける神の御子キリストなのです。

## 4) 「イエスはキリスト」の信仰は絶対

この「イエスはキリスト」という信仰が絶対的なものにならなければなりません。イエス様は悪魔サタンのしわざを打ち壊した真の王様であり、イエス様は地獄の勢力を打ち壊した真の預言者であり、イエス様はすべてのわざわいを撃ち殺した真の祭司であるイエスはキリストです。だからイエス様は唯一神様と出会える道、イエス様はいのちなのです。イエスはキリストです。この信仰告白は昨日も今日も明日も世界中が自分がどう変わろうが変わってはいけなく、変わらないものなのです。なぜクリスチャンなのに無気力なのでしょう。なぜクリスチャンなのに人を助けることができないのでしょうか。なぜ力がないのでしょうか。暗闇の力に制せられているからです。なぜそういうふうに暗闇の力に操られているのでしょうか。信仰告白がころころころころ変わるからです。イエス様に対する信仰、「イエスはキリスト」という信仰告白、これは絶対なのです。今日の聖書を通してすべてがイエス様に背いて、世界中の世論が暗闇に囚われていたときに、この方こそ神の御子に間違いない。神の国を待ち望んでいた。イエス様を気にかけていた女たち。絶対信仰。それを確認して、私たちの信仰、自分の信仰がこの絶対信仰ですということを心から覚悟していただ

きましょう。

## 2. 十字架の福音を誇りに喜ぶと、いのちの運動が行われる。

そして、この絶対信仰を持つようになりますと、当たり前の結果なのですが、十字架の福音を誇りに思うようになります。守るだけではありません。絶対なので当然それは誇りでしょう。絶対価値なので。だから十字架の福音を誇りに思い、その福音を喜ぶようになりますと、その人を通していのちの運動が行われることになります。そのことを心に覚えて、そして契約として握って、幻としてイメージしていただきたいと思います。皆さんの能力と条件、環境と一切関係ありません。神がなさることなのです。神様は信者の私たちがこのように十字架の福音を誇りに思い、それを喜ぶことを待っていらっしやいます。

### 1) ローマ 1:16-自分の救い、他人の救い

なぜ福音がこのように誇りなのでしょう。福音とは一体なんなのでしょう。パウロはローマ 1:16 においてこのように言っています。「私は福音を恥とは思いません」。これはギリシャ語の表現の仕方なのです。ものすごく誇りに思っていますということはこのように表現します。私は福音をものすごく誇りに思っています。なぜかと言いますと、「福音は、ユダヤ人をはじめギリシャ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です」。なぜ福音が誇りなのでしょう。福音は私を救われる力なのです。福音によってのみ私は救われます。私が救われるだけではなくて、ユダヤ人もギリシャ人もと言われているように、他の人も救われる道は福音しかないし、福音によってどのような人間でも救われることになります。世にあるいくら良いもの、素晴らしいもの、優れたものであっても、人の救いをもたらす力は存在しません。唯一、十字架の福音だけが人を悪魔のしわざから地獄の運命から罪から救い出すことができる力なのです。だから私は十字架の福音を誇りに思います。

### 2) イエス様が私の中に-すべての問題解決、新しく生まれ、ミッションの人生、御国の保証、御座のバック、ローマ 8:39、37、28

そして、この福音というのは、このようなキリストであるイエス様が信じる私の内側に入ってこられて、永遠に離れることなく住まわれるようになること。それを福音と言います。先週も申し上げましたように、十字架によって神と私を隔てていたすべての壁が崩れて、生きた新しい道が開かれました。私たちにはそういう資格も条件も何もありません。滅びるしかない者なのに、十字架を通してさんみい三位一体の神様が、キリストであるイエス様が、私の方に訪ねてこられて、私の内側に入って、私を住まいにして永遠に離れることなくともにおられることになります。これをいのちと言います。しかも永遠に変わることがないので、永遠のいのちと言います。その結果、どのような過去を歩いてきたのか、今現在どういう問題を抱えているのか、これからどういう問題にぶつかって遭遇して行くのか、いろいろあるでしょうけれども、一切関係なく、キリストであるイエス様が私の内側にいらっしやるその福音によって自分のすべての問題は終わりました。だから、福音を誇りに思うわけです。誰が私の人生のすべての問題を完璧に終わらせることができるのでしょうか。親でしょうか。政治家なのでしょう。お医者さんでしょうか。どこの宗教の指導者でしょうか。誰なのでしょう。なぜさまよっているのでしょうか。すべての問題を解決するのは。すべての問題が終わるだけではありません。以前の私は死んで新しく生まれ、新しいいのちが与えられることになります。だから、十字架の福音を恥とは思いません。それに留まらず、一回限りの人生、今までは何を食べるか飲むか、家庭の平和のために、自分の幸せ、家族の幸せのために、いろいろな大義名分のために生きてきたかもしれません。それは全部消えてなくなる価値なのです。しかし、この福音というのは、そのようなみじめな私を絶対価値であるミッションの人生を歩くように引っ張っていくものなのです。私をミッションの人生の道のりに押し出すものなのです。気づいていないだけであって。結論のところでも申し上げるつもりですが、皆さん、振り返ってみて、どのようなつらい思い、また痛みなどがあったのでしょうか。それが心の傷として残っていると、それはサタンのやぐらになるのです。それがミッションのための材料なのです。それが福音なのです。福音は私のすべての汚れと痛みとつらさをミッションに変える力を持っているのです。騙されないようにしましょう。このイエス様が聖霊を通して私の内側にいらっしやるから、だから当然、御国の主であるイエス様が私の内側に永遠にいらっしやるから天国は保証されているのです。それが福音です。だから福音を誇りに思うわけですね。保証されているだけではなくて、この地上を歩いているときにさまざまなことがあり、いろんな限界があるにもかかわらず、圧倒的な勝利者となれる御国の御座が私のバックになります。

これを福音と言います。偉い人だけではありません。教会に長年通っているからこうなるわけではありません。誰でもイエス・キリストを信じて救われた者は御座の祝福がバックになり、この祝福は誰も引き離すことができないし、どのような試練、問題、敵にあったとしても、圧倒的な勝利者となることができるし、すべてを働かせて益となるようになります。なぜならキリストなるイエス様が私の内側にいらっしゃるからです。パウロは言いました。だから誰にも理解してもらえないお話しでしょうけれども、私は私の弱さを誇りに思うよと。内側にキリストがいらっしゃるから。それを福音と言います。自分自身に騙されないように。自分の考えを無視するように。だから十字架の福音を誇りに思うわけです。

### 3) ローマ 5:1-2

誇り思うので思いつきこのように告白して味わうこととなります。ローマ 5:1-2 を見ますと「ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。またキリストによって、いま私たちの立っているこの恵みに信仰によって導き入れられた私たちは」、福音を誇りに思うので「神の栄光を望んで大いに喜んでいます」。神の栄光を大いに望む人になります。福音を誇りに思うから。刑務所の中でも。死の影の谷を歩いているときでも神の栄光を大いに望む祈りの人としてその状況を貫いていくようになります。なぜ信者の私たちは問題があるたびにそれに溺れて引っかかって右往左往してるのでしょうか。福音を誇りに思っていないからです。福音が本当に誇りに思えるようなその内容を確認していれば、どんな状況であろうが私が見上げるべきところは御座にあります。

### 4) 詩篇 23:1、ピリピ 3:18、I コリント 2:2

主は私の牧場の羊飼いであり、私に乏しいことなどありません。どれほど福音を誇りに思っていたのかとかということ、今も皆さんにお話しましたように、ダビデのような人は、死の影の谷を歩いているときでも、主は私の牧場の羊飼いであり、私には乏しいことはありませんと言いました。言葉を変えますと、私は福音を持っているのだ。だから大丈夫なんだということでしょう。パウロは今まで自分が誇りに思っていたすべてをちりあくと表現するほど福音を誇りに思っていました。これが私たちの信仰告白であり、信仰のスタンスなんですね。それでコリントの教会に向かってもパウロはこのように勧めています。I コリント 2:2 「なぜなら私は、あなたがたの間で、イエス・キリスト、すなわち十字架につけられた方のほかに、何も知らないことに決心したからです」。何と比べられるのでしょうか。何と比較できるのでしょうか。福音を誇りに思っているので、絶対信仰の上に立っているのです、十字架のほかに何も言わない、何も知らないことに決心したと。パウロのような博士、知識に精通している人間がこのように告白しています。皆さん自分自身に何を自慢して、何を誇りに思って、何にプライドをかけていらっしゃるのでしょうか。本当にそのような価値があるものなのでしょうか。もしかしたらキリストの十字架の福音をそれほど誇りに思っていないからそうになってしまうのではないのでしょうか。よく考えてみてください。クリスチャンの私たちの信仰は、絶対信仰です。その福音を誇りに思い、世のさまざまなものや問題や自分の限界などに溺れることなく、誇りになるその福音をしっかりと握って、神の栄光を大いに望むそのような信者になりましょう。それが2部礼拝でも申し上げますが、イエス様が弟子たちに最後におっしゃいました内容の意味なのです。それはあなたがたは知らなくてもいいですよ。なぜなら福音を持っているでしょう。福音を誇りに思いなさいよ。ならば、それはあなたがたは知らなくていい。今までは自分のレベルの中で限界の中でこういう問題があるからつらい、こういう問題があるからだめ、この人は悪いことをしたからダメ...等々、いろんな思いがあったかもしれない。それはあなたがたは知らなくていいよ。それを福音を知らないとき、福音を持っていないときのお話であって、また、福音が与えられたとしても、それが絶対になり、誇りになるようなことがないからそうになってしまうので、それはいくら考えていくら頑張っても結局は損してしまうことなんだよ。あなたがたは知らなくてもいい。福音に預かりましたあなたがたが、世の中からどのように見られようが、どれほど尊い価値ある貴重な存在なのか思い出ささいよと勧めていらっしゃるわけです。Only 聖霊が臨まれると、力を得て。大統領にこの祝福があるのでしょうか。大学の教授に経済的な力を持っている人に思想家に芸能人に誰にこのような祝福があるのでしょうか。Only 聖霊が臨まれると与えられた力が豊かに豊かになって、暗闇に光を照らすことができる祝福が誰に与えられ、誰に許されているのでしょうか。神様によって新しく造られた自分を見失うことがないようにという意味なのです。それはあなたがたは知らなくていい。何を食べるか飲むか心配しないように。何も思い煩わないでと言われているわけです。

ぜひ今日のメッセージを握って、真剣に吟味していただきましょう。福音のほかに自分自身に一番影響を与えたお話、何かの理論や思想等々あったでしょうか。感動のようなものがあったでしょうか。その前で「イエスはキリスト」と告白しましょう。そして逆に、自分の一番つらいこと、一番耐え難いようなことの前で、それがどうのこうのと言う前に「イエスはキリスト」と告白して、絶対信仰を体験しましょう。その時に皆さんの計算、力では想像もつかない暗闇の力が砕かれることを必ず経験するようになるでしょう。

そして、先ほども申し上げましたように、その信仰告白によって信者にある痛みが傷ではなくて、キリストへの絶対信仰になるように整えられるためのものだということを忘れないようにしてください。ただ苦しんでもらうために神様が許されたものではありません。キリストを十字架に引き渡されるまで、私たちが愛してくださった神様が「おい、苦しみなさいよ」と言う神様ではありません。それは私たちに過去の刻印が壊れて、本当に絶対信仰の上に立つようにという神の願いをもって許された神様の導きであり配慮なのです。なので、そのように受け止めて、その痛みからミッションを見つけるようにしましょう。神様は絶対信仰に整えて、その痛みからミッションの人生を始めるようにしていらっしゃいます。いつまでたっても過去に囚われて、あれだこれだ、ああだこうだ、誰のせい誰かのせい何かのせい、それさえなければ...そういうことは悪魔のしわざなのです。それはなぜあったのでしょうか。なぜ理不尽なことがあって、なぜ他の人にはない痛みが私があったのでしょうか。なぜほかの人には見られないつらさが私にはあったのでしょうか。ミッションのためなのです。ミッションのため。

なので、これから世のさまざまな理論や人の声、また何かの問題などに溺れることなく、福音を誇りに思い、救いの祝福を喜び、まず喜ぶ祈りです。それでその救いの力が具体的に自分自身は初め、関わっているすべてのところに現れる祈りをささげる信者になりましょう。私たちには充分そのような資格が許されています。

#### (祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。キリストによって神の恵みにより私たちに永遠のいのちが与えられていることをありがとうございます。天の御国が私のものであるということを覚えさせてください。それでどのような状況であっても、どのような感動の前でも「イエスはキリスト」という信仰告白を忘れることがない絶対信仰者になり、その福音を誇りに思い、福音を喜んで味わうことができる祈りの信者として私たちに新しく生まれさせてください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン。